

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム ときわの里 すずらんの家		
所在地	岩手県奥州市水沢区中田町4番19号		
自己評価作成日	平成24年6月19日	評価結果市町村受理日	平成24年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500147&SCD=370&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて、ありのままの利用者様に寄り添い共に生活していきます。日々の中でチームとして状態把握に努めサービスを提供していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が、高齢者複合施設の一つとして、昨年12月に設立した2ユニットのグループホームときわの里は、国道4号線沿いの市街地としては静かな広大な工場跡に立地し、ホームの中は両ユニットとも大変広々として、解放感を味わえる造りとなっている。事務室を真ん中に両ユニットの動きが見渡せる造りになっており、同一屋内の2ユニットなので、折に触れコミュニケーションを図っており、特に夜勤者は、心強さを感じている。ほとんどの職員は地元に住んでおり、ホームが近距離にあることで、特に緊急時には迅速に対応することが出来る。利用者は、それぞれ役割が出来ており、毎日のカレンダーめぐりや新聞取りや、片付けなど、責任を持って、こなしている。開設から日が浅いため、ホーム内外の環境づくり等は、完全には手が届きかねる面もあるが、管理者・職員の前向きな姿勢で前進されることが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で創った理念をホールに張り全職員が共有し個々の思いを察してあげられる実践に努めている。	全職員による意見の集約である理念「一人ひとりの思いを大切に、利用者の方々に寄り添った生活を目指し、目配り・気配り・秘めた力を引出し、いきいきと生活ができるように支援する」を掲げ、ミーティング時に掘り下げ、全員で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年開所なので日常的な交流に至っていないが、今は、施設自体を解ってもらえるように地域の行事に参加していきたい。	開所後、日が浅いことから、現時点では地域とのつながりが不十分と考えているが、管理者をはじめとした全職員が一体となり、積極的に働きかけていく前向きな姿勢がうかがえる。ほとんどの職員が地元に住んでおり、便利な面もあり、今後が楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩したり買い物をしたりと今までの生活の延長だと知ってもらえるように努めている。また、見学者やホームについての質問に対して都度対応している、運営推進会議にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会を開き、地域・行政・ご家族に参加して頂き利用者様の生活ケアについて報告し委員から話し合いや提案して頂いている。開催後に職員に報告し内容を共有している。	行政・有識者・民生委員・家族代表・町内会長等の出席で、運営面の報告や防災など多角的でも身近な話し合いがなされ、ホームへの理解・関心度が次第に高まってきている。	更に実りを積み上げ、万全な体制で運営するためにも、内容に応じて消防・警察関係の参加も促して頂きたい。そして、可能ところで家族代表も交替で参加して頂き、様々な方による意見交換等が出来れば一層盛り上がると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市の長寿社会課の方が参加して頂いており、ホームの実情がわかっている。日頃から判らないことは市に相談したり連絡ももらっている。	2か月に一度の運営推進会議や、毎月のグループホーム協会の会議に市から長寿社会課の担当が出席し、公的な連絡事項やホームの現状などの情報連絡をし合っている。また随時、認定更新等の用件でも連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス向上委員会を発足し身体拘束・虐待予防に関するマニュアルを作成している。開所時から「身体拘束をしない」「玄関のカギをかけない」と施設全体で「拘束しない」ケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待予防に関するマニュアルを作成し、毎月の職員会議時に気付いたことを発表し合い、共有している。職員が利用者一人ひとりの、その日の気分や状態をキャッチすることで安全面に配慮し、穏やかに自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス向上委員会を発足し内部研修等で虐待防止に努めている。入浴介助時等に身体の変化や、ご利用者との会話が言葉の虐待になっていないか等お互いに注意をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームときわの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス向上委員会で内部研修している。また、外部研修の予定。今のところ利用している入居者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書の内容を説明し同意を得ている。家族等の不安・疑問に応じて理解・納得を図っている。24年4月の介護報酬改正時には文書にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問があり利用者の相談や要望を聴き伝えてもらっている。また、利用者と話したり、面会時ご家族との話の中で意見や意向を聴き反映に努めている。	随時、市から介護相談員が2名訪問され、直接利用者と会話し、相談や要望を聞き伝えてもらうようにしている。家族には手紙や訪問時に問いかけるなど、話しやすい雰囲気作りに留意し、ミーティングで話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回職員会議を発案の場として反映をはかっている。	月一度(第一水曜日)の職員会議時や毎日の小ミーティング時(申し送りなども含む)に、小さな気付きを提案したりし、いろんな角度から管理者は職員とのコミュニケーションを図るように心掛け出来る限り反映させるように努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時に労働条件通知書及び辞令書等で勤務状況の把握をはかり、有給休暇等の労働体勢を整え職場環境条件をととのえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得を勧め講習日は有給扱いまたは、資格取得による経費を会社負担とし、社内の内部研修(サービス向上委員会)等でトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しネットワークづくりやサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活になる為困ったり不安などに耳を傾けながらご利用者の表情を読み取り、申し送り、連絡ノートで統一した対応で本人の安心を確保し信頼関係がつかれる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聴き、ご利用者への援助や要望に耳を傾けながらサービス提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問し、生活の環境等を確認し、情報収集している。どのように支援したらよいか話し合いサービス提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができる事・したい事を日課とし「生きがい・意欲」が持てるように支援しています。(モップかけ、リネン交換、洗濯たたみ、草取り、野菜の水かけ等)又日常の会話の中から人生の先輩として経験に裏づけられた生活の知恵を学ぶことが出来それを話題にすることで利用者との間が身近なものとなります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の近況、行事等を手紙で報告しご家族との絆を大切にしている。外出なども自由にして頂き一緒に食事などを楽しんでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、兄弟、友人等の面会があり、ゆっくりと話が出来るように配慮している。また、家族と一緒に外出し、食事や買い物等楽しんでいる。	床屋さんが出張散髪に来てくれたり、詩吟の得意な利用者のところにと昔の仲間が面会に来て共にうたったり、馴染みのスーパーに家族と買い物に出かけ、食事をしたり等、それぞれが継続的に交流が出来るように働きかけをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に助け合う関係が芽生えてきていると思われます。個々が笑顔になれる様にみんなのできる事を行い、お互い支え合える行事等も考え支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先を訪問したり様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズムを大切にしながら日々の会話・表情・行動を観察し、意向や思いを受け止め希望に沿った支援に努めている。	利用者が、テレビや新聞のチラシを見てから、急に外出欲が出たりして、職員が付き添って出かけることが度々ある。また、職員が利用者の希望を聞き取り、編み物・詩吟・散歩など趣味的な希望を叶えるようにして支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に訪問し、生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境を把握するように努めている。また、本人・家族から聞いたことを職員は共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況や行動を個別ケースに記録し、気付きや有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活できるか職員会議でケース検討を行っている。モニタリング・アセスメントを行い介護計画を作成している。面会時や電話で家族の希望を聞き計画に取り入れている。	職員会議で積極的に意見を出してもらい、計画作成者がまとめ、家族・本人からの意見も反映させて介護計画を作成しているが、これまでは殆ど家族からの注文はなかった状態である。新たな変化が生じた際には見直しは臨機応変に行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の行動や状況を個別ケースに記録し毎朝申し送りし情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度希望や要望に応じて対応するよう心がけている。身体的な変化にも対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームときわの里

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区会長・民生委員・ボランティアの方々の協力、援助を受けれる状況になる様実行中です。幼稚園・保育園に協力を要請受理されている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に家族対応している。受診後は、家族から内容を確認している。家族対応がむずかしい時には施設の協力医による受診対応(車で送迎付き)が必要があるときは、歯科医の往診もある。	受診や通院はご本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行となっているが、家族の都合がつかない際には職員が代行することもある。また車いすの方は事業所に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の精神面や体調面は、当施設の看護師に報告・相談し、助言を貰っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は「利用者様情報提供書」を病院に提供し退院時は、看護サマリーの情報提供や退院連携担当者と面接し状況把握できるようにする。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は、今の時点では難しくターミナルケアは考えていない。	開所後半年余り、事業所の力量や体制が不十分な面もあり、目下、ターミナルケアはやらない方針。しかし、サービス向上委員会が中心になりAED講習や緊急時の応急対応処置などの訓練は機会があるたび実行している。	ターミナルケアは考えていないようだが、利用者が入居する際には、利用者の状況を踏まえ段階を経た対応が重要である。契約時から、事業所の考え方を明確に説明し、契約書にも(それについて)明記されることを望みたい。そして職員全員で機会を見て徐々に話し合い、関心と知識を深めてほしい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがあり、看護師による応急手当の研修会を行い対応できるように努めている。救命救急研修を6/29日に行う予定。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防の協力を受けて実施している。色々な指導を受けて職員に周知されている、課題としては、地域住民の協力が得られていけませんので今後の検討としていく。	スプリンクラー・緊急通報装置・マニュアルなどが完備しており、年一回の避難訓練も消防署立ち合いで実施している。ただ、開所間もないこともあり、隣近所への声掛けが十分でなく協力が得られていない。非常食の備蓄も現時点では用意していない。	災害時、避難した際に、利用者の見守りなどで、地域住民の協力が欠かせない例が多々ある。地元出身の職員が多い利点を活かし、また運営推進会議においても、大いに、話題にして支援体制を整えていくことを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、その方の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように声掛けや対応に努めている。(排泄介助時には、罪悪感を抱かない様に注意している。)	自発的に日めくりカレンダーをめくる方や新聞受けから新聞を取ってくる方など、些細なことでも尊厳を守るため褒めるようにし、また身体的不自由のある方は早期に把握し、さりげなくカバーしてあげたり、目立たなくさりげない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を傾聴し、自己決定できるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者と一緒にレクや体操をする場合もあるがホーム・職員の都合でなくご利用者が自分のペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理容を利用して顔そりやカットしている。自分で選べる方は好きな服を選んで着替えて頂き、一人で身支度や整容のできない方は、手助けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は、食事を楽しみにしている。季節感に応じたメニューを取り入れ提供している。テーブルを拭いたり、下膳、食器拭き等の手伝いしてもらっている。	職員の調理担当者が調理している。利用者は下膳や食器拭きをお手伝いしている。利用者からの希望食はあまりない。随時、社長宅の畑から季節の野菜が届き、新鮮な野菜が食卓にあがったりしている。時には外出の機会を利用して回転寿司などで外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者の食事量・水分量を記録し、水分不足が起こらないように注意している。不足の方には、好きな飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし歯磨きし必要に応じて介助を行い磨き残し、義歯のチェックを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームときわの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄記録を記入し、排泄パターンを把握し声掛けトイレ誘導をしている。歩行不安定な方や出来ない所は介助している。	現在、約6割の方が自立排泄となっており、他の方は職員の介助により排泄を行っている。いずれも排泄記録表を元に、さりげないトイレ誘導を行っている。若い職員達が、あくまでもトイレでの排泄を基本にという考えにおいて、穏やかな態度で声掛けして誘導・介助し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により体調不良になることも考えられるので水分量に気を付けて補給している。便秘の方には医師より処方されている薬を服用しながらも、水分補給、野菜、運動等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックにより週/2~3回入浴している。入浴を拒否される方もいるが無理強いせず気持ちを大切にしている。	看護師資格がある職員が3名おり、的確にバイタルチェックを行った上で、週2~3回の入浴を行っている。両ユニットとも広い風呂場で、車いすが自由に入れ、2人での介助も可能である。入浴に関して、職員が一方的に決めないで、利用者の希望を第一に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活リズムを重視し、習慣を崩さないようにしている。希望により居室の灯りを調節したり、室温にも気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを綴り職員全員が内容を把握している。薬の変更時は連絡ノートに記入し誤薬、服薬忘れの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、ご本人・ご家族の話などからできる事、楽しみにしていることをして頂いている。レクを通じて他の利用者とのコミュニケーションを楽しんで頂き、個々の趣味を継続している方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外で日光浴や散歩している。家族の方と外食・買い物に出かけるご利用者もいます。また、施設の行事等でドライブや外食なども行っている。	年間の計画で行う行事、利用者の突発的な気持ちに合わせ出かける外出、日常的に近隣の公園散歩など活発に外出等の支援をしている。両ユニットの外出頻度が多少バラつきがあるが、できれば同じくらいの頻度での外出支援が出来るように改善する予定としている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームときわの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は、本人管理のお金は持っていないが家族から預かったお金で嗜好品や必要な物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望で電話をかけたり、かかってきた電話を引き継いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理にも配慮し天気の良い日は外気を入れている。季節の花や写真等を飾り生活感があり居心地よく過ごせるように配慮している。	事務室を真ん中に、左右に広々としたホールがあり玄関から入った途端に開放感が味わえる。全館白木のぬくもりが感じられ、床暖房・バリアフリー・全ヶ所手すり付、両ユニットともホールの脇にはゆったりムードの和室があり、壁にはイベント時の写真も貼ってあり、ホール内には手作りの作品も並べている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを設置しご利用者同士それぞれの思いで自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者によっては馴染みの物を持ってきて居心地のよい部屋にしている。ご本人、ご家族の意向を大切にしている。	全室フローリングに、備え付けのベットと、大きなクローゼットがあり、すっきりした居室に、お位牌や写真を持ち込んでいる利用者もあり、それぞれ居心地良さそうに工夫されている。あくまでも本人・家族の意向を大事にするように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で歩いても危険が無いように、バリアフリー・手すりの設置をして安全に歩けるように配慮している。トイレは、マークで表示し、浴室は、のれんを掛けて場所が判るように見守り支援している。		